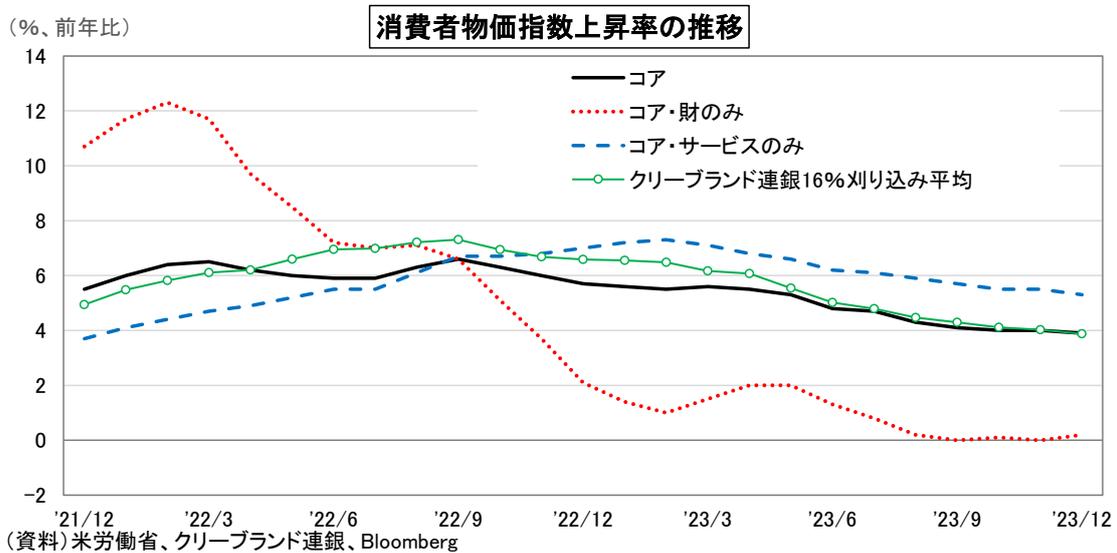
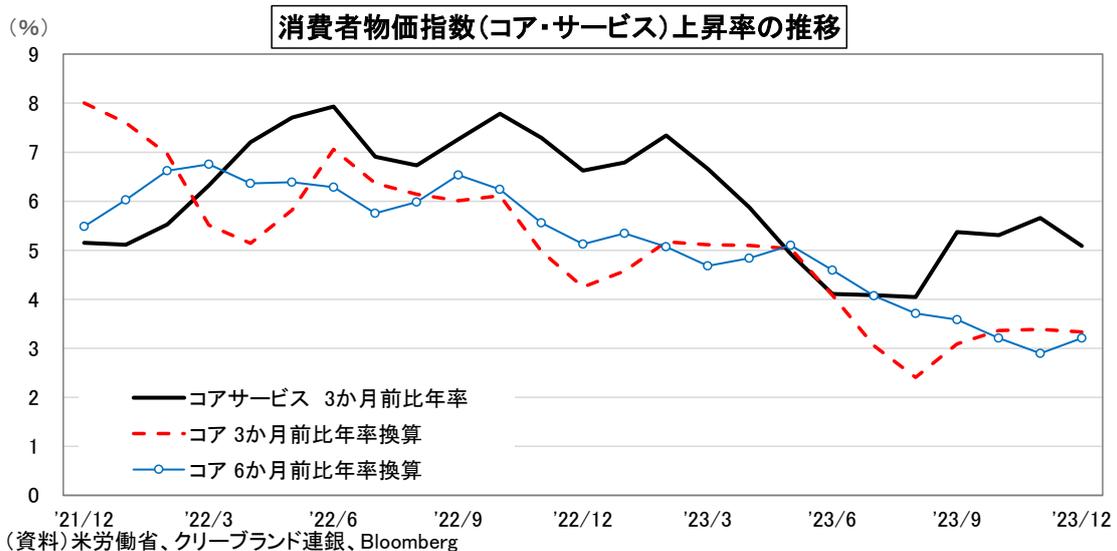


(米国) 緩慢な鈍化ペースとなった12月CPI

12月の消費者物価指数(CPI)を確認すると、総合は前年比3.4%(前月比は0.3%)、食料とエネルギーを除くコアは同3.9%(同0.3%)となった。鈍化基調は維持されているもののペースとしては緩慢といえるだろう。内訳をみると、住宅項目の上昇率が前年比6.2%と高い一方で、住宅を除いたCPIは5か月連続で前年比2%未満での推移となった。



コアCPIについて、より足元の動きを確認しやすい3、6か月前比(年率換算)を計算すると、それぞれ3.3%、3.2%となっており、2%程度で安定するにはしばらく時間がかかりそうだ。また、労働市場の需給との連動が指摘されるコアサービスCPIはあまり鈍化していないこともうかがえる。



利下げ開始時期を考える上で12月CPIは、早急な利下げの可能性は低いことを改めて示唆する内容となった。FRBが目標とする(PCEデフレーターで計った)2%物価目標を達成するためには、インフレ率がもう一段鈍化する必要があるようだ。筆者としては、24年半ばまでは現行の5.25~5.50%を維持した上で、その後は過度な金融引き締めを避けるべく速いペースでの利下げが行われると現時点では予測している。利下げは6月FOMCあたりからではないだろうか。